

即ち日本主義労働運動の行動の基本たる
一労働者の職分は産業上の秩序たるに鑑し 階級的偏見を去り融合以て産業
二労働条件の善条件維持改善を期し其の適正を期すべし
三國家の柱石たる産業人としての自己の職分を完すべし
を主張する

労働の経済的立場は不一致であること云ふ唯物論論據が労働組合の基礎にある
即ち利害が一致しないこと云ふことは對立的立場を併する事に依つて殊に甚だし
い現象を生ずる利害の不一致を理由として階級斗争を主張するものなれば各
人は大なり小なり各々利害が一致するものではない、
これは大なり小なり各々利害が一致するものではない、
吾々の社会生活に於て元々の各々の立場より来る利害は各々自利と正しき
認識を以て相譲る處に人間的として解決がある人類である以上此の事實は
労働の間には於て不平等の経済的立場は決して戦ふことと解消解決を得
るものではないのやなら相互の理解及眞の解決をなし得るものではない、
現に日本の労働運動内に於て此の理解の下に融和と協力が眞實に行なは
れぬ事を得て功績を挙げて居る元来の日本の労働運動は國法を害する
は云へば未だの社会事業や智識階級の一先きの理論に刺戟され一歩に社会党を改
革せんとしたか元来の日本の資本主義経済組織は日本の急激な發展に先達した
ものに於て交々切羅を積み上げたものなり、
に相対した欠置を採らなかつたり、
ない故に吾々は制度改革万能主義者や非日本風の改革道徳主義者は漸く日本
の改善を望まぬ。

三一切の制度経済制度の改善は産業精神の振興と相俟つべきを期す。

労働者の経済的立場

資本主義経済の打開法としてのインフレ政策 其他田の暴落 満洲事変
に依つて各工場及貿易関係は相當活発な動きを見せて居る久而し此の景氣は
現在の経済界の回復を意味する正當のものではない、
即ち天変に拍車を加へられた農林の疲弊は將來共現在に於ける合理的な
並に日本人の産業上に於ける勤勉と技術の優秀性は貿易に於ける利益に
千の動きを見せ海外出荷の率を高め日本品の世界的發展とは現にあり、
ある本 吾等生產業の過剰を高め日本品の阻止を企て或は貿易品の制限交渉に
うとしない 各國は関税を高め日本品の阻止を企て或は貿易品の制限交渉に
於て日本に致命的損傷を以て居る
す此等の特來の吾々の運動の上にも又産業人として日本の産業に病魂を打
ち込む 吾等労働者の日本の経済上に於ける進行に充分なる認識としなければ
はならぬ 階級斗争の経済的打開法として常態日本、國政としての立場を
採らなくしてはならぬ、
かゝる現實が労働者自身の経済上に及ぼす不況打開法として 階級的融合
や斗争を自ら為すものにあらずる事を明白にして居る
企業家の諸君に於ても 自己の在來の不平等と認識不足は充分に暴露し
殊に労働者と融接する事に依つて清樹立の方針たる心算は充分に改め産業